

令和5年産米の状況と令和6年度に向けた取り組みについて

1. 令和5年産米の作柄と品質状況

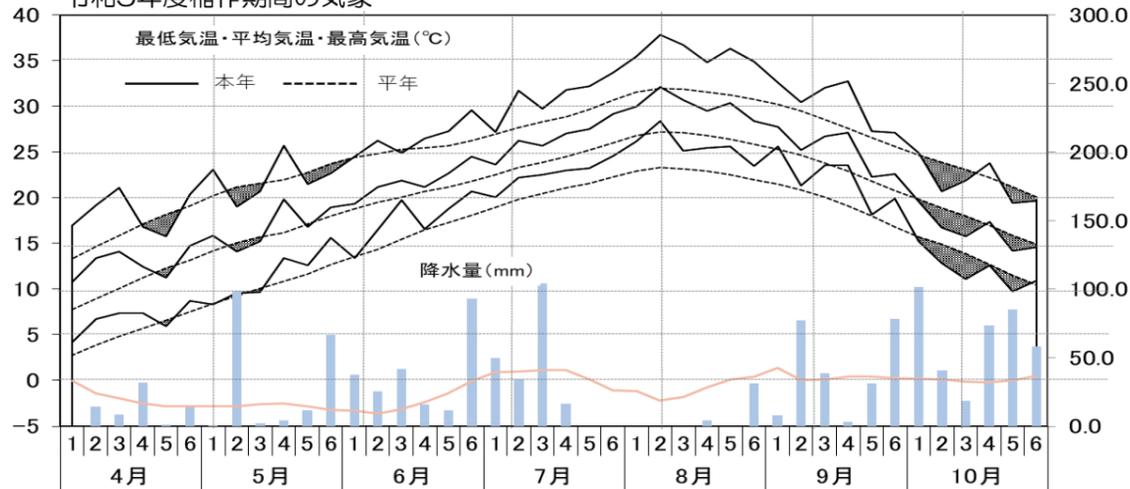
令和5年11月29日現在

○新潟県は7月下旬以降の記録的な高温少雨により、95の「やや不良」、上越についてはさらに悪く93の「不良」となりました。
○主な格付理由は、白未熟粒（心白、背白等）、除青未熟粒でした。

品種名	上位等級比率 ※○は2等米比率	出荷契約対比
つきあかり	8.4% (88.7)	97.0%
こしいぶき	6.9% (90.5)	94.1%
コシヒカリ	7.0% (73.5)	92.9%
にじのきらめき	15.7% (82.8)	95.3%
みずほの輝き	6.5% (91.2)	89.5%
うるち計	11.7% (76.9)	92.9%

2. 品質・収量低下要因

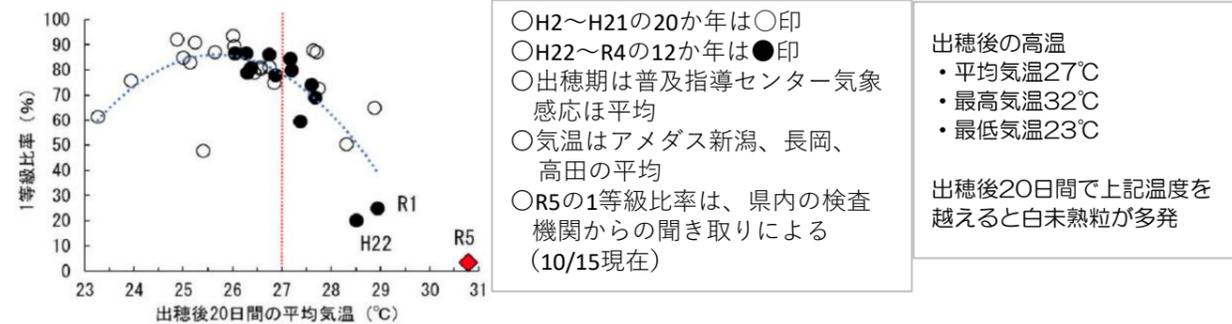
令和5年度稲作期間の気象



○8月最高気温平均：36.0℃（平年差+4.7℃）
最低気温平均：25.7℃（平年差+3.1℃）
平均気温：30.1℃（平年差+3.7℃）

8/9最高気温39.2℃（台風6号フェーン）
8/14最高気温39.5℃（台風7号フェーン）
8/24最高気温37.3℃（異常高温）
8/31最高気温36.2℃（異常高温）

コシヒカリの1等級比率と登熟温度（出穂後20日間の平均温度）



3. 厳しい環境下でも好成績を上げている生産者の取り組み事例

- ・秋すき込みを**毎年実施**している。（早い時期に実施している方の割合が高い）
- ・ケイファン等**有機質を継続**して投入している。
- ・**ケイ酸資材等の施用**を継続している。
- ・早生、中生、晩生を計画的に播種し、**出穂日を意識した田植え**を行っており、同一品種でも田植日をずらしている。
- ・降雨は無かったが用水が確保でき極端に**圃場を乾かさなかった**。
- ・飽水管理を継続し、**落水時期も遅らせた**。
- ・**適期中干し**により茎質の向上、根の健全化が図れたと思われる。
- ・大区画ほ場で額縁だけでも**追加で穂肥**を施用した。



4. 令和6年産に向けて特に重要な技術

土づくりの実践 ◎気象変動に強い、稲の登熟する能力を向上

- ①**堆肥・土づくり資材・籾殻の施用**
 - ・堆肥は肥料効果、物理性の改善、土壌の保肥力の向上効果があります。
 - ・土づくり資材は土壌養分の不足を解消します。
 - ・籾殻はケイ酸分を多く含みケイ酸供給資材として活用できます。
- ②**稲わらの秋すき込み**
 - ・稲わらの秋すき込みは堆肥施用と同じ土づくり効果があります。
 - ・春の根腐れの原因となるワキの発生が軽減され初期生育が促進されます。（根の健全化）
- ③**深耕による根域の確保（作土深15cmを目標）**
 - ・作土層を深くすると根が深く張りフェーンや干ばつなどの気象災害を受けにくくなります。

初期生育の促進と適期中干しの実施 ◎コシヒカリスケールの活用で適期中干し

- ①**播種・移植時期の適正化**
 - 早期活着と下位分けつ確保のため、適期播種により規格苗移植を徹底しましょう。（特に高密度播種苗における老化苗移植を防止）
- ②**確実な穂肥施用と根の健全化**
 - 適正な中干し（開始時期、中干しの程度、終了時期）により確実な穂肥の施用と根の活動深度、根量の増加、根の活力維持ができます。深耕と同様、適正な中干しで根が深く張りフェーンや干ばつなどの気象災害を受けにくくなります。

後期栄養の維持 ◎地力の向上、穂肥の追加、適正な管理による根の機能向上

- ①**地力の向上**
 - 「有機質施用」は地力の下支えとしての効果が期待できます。秋施用ではなく春に元肥で施用する方法もありますのでほ場の状況に応じて対応しましょう。
- ②**穂肥の追加**
 - 確実に葉色診断を実施し、高温が予想され、出穂期頃の葉色がめやすを下回る可能性がある場合は、出穂期3日前の追肥を検討しましょう。
- ③**根の機能向上**
 - ワキの発生（強還元）、浅耕、田植え時の深植え、苗質不良では根量不足になり根の機能が低下してしまいます。基本技術を確実に実施しましょう。
 - 根の機能が向上すると給水能力が高まり光合成量が増加します。ケイ酸資材の施用はケイ酸吸収量が多くなり根の水分吸収が活発になることで葉面温度が上昇しにくくなり登熟が向上します。

令和6年度水稻栽培に積極的に活用していきましょう

近年、高温登熟が原因の品質・収量低下が続いており、高温登熟障害を中心に対策を進めておりますが、令和5年度は災害レベルの高温と渇水の被害にあいました。常態化する異常気象下では、「高温障害リスクの増大」や「初期生育不良による中干しの遅れ」、「後期栄養凋落」など品質・収量低下に繋がりがやすい傾向にあり、今まで以上に細かな管理を徹底していく必要があります。JAでは、関係機関と連携し、様々な登熟障害防止対策の実証をすすめてまいります。地域全体の力を合わせて、品質向上を目指しましょう。

お問い合わせ先
 頸北わかば営農センター ☎025-530-3000 上越営農センター ☎025-523-5075
 頸南営農センター ☎0255-78-2475 本店 農業対策課 ☎025-527-2050